

「TOTO ギャラリー・間+NCU joint WS」の成果報告書出版

影山友章

1. はじめに

TOTO ギャラリー・間は、“建築の殿堂”と称される東京・乃木坂に位置する建築の専門ギャラリーである。本稿では、2022年3月から4月にかけて実施した「TOTO ギャラリー・間+名古屋市立大学芸術工学部ジョイントワークショップ」のアーカイブ書籍、「Fictional Exhibitions」の制作について報告する(図-1)。

書籍概要

書籍名：Fictional Exhibitions

発行部数：300部

ページ数：134頁

寄稿：筏久美子 (TOTO ギャラリー・間 代表)

久野 紀光

フィルフォヴァ ネダ

影山 友章

佐藤 泰

水谷 夏樹 (水谷夏樹建築設計事務所)

翻訳：ラウズ ルイーズ

編集・デザイン：戸高 菜月 (フィルフォヴァ研究室)

サポート：TOTO 株式会社 文化推進部

2. TOTO ギャラリー・間 ジョイントプロジェクト

TOTO ギャラリー・間+名古屋市立大学芸術工学部ジョイントワークショップは、久野准教授とTOTO ギャラリー・間の協議により発起された、産学連携プロジェクトである。プロジェクトは基調レクチャー・シンポジウムとワークショップで構成されており、2022年3月10日に



図-1 書籍「Fictional Exhibitions」の完成品

はTOTO ギャラリー・間の代表、筏久美子氏を招き「展示会が語る建築のエッセンス」をテーマに基調レクチャーを実施した。また、シンポジウムではTOTO出版の編集者川崎亮氏も交えて、久野准教授との対話形式でシンポジウムを実施した(図-2)。



図-2 シンポジウムの様子

ワークショップでは「TOTO ギャラリー・間を展示空間とした架空の展示会の企画提案」を目的に設定し、展示会という総合的な創作に必要な専門性である「建築意匠」、

「グラフィックデザイン」、「環境心理」、「プロダクトデザイン」を専攻する学生を募った。また、それぞれの専門性の指導教員として発起人である久野准教授の他、フィルフォヴァ准教授、佐藤泰講師と筆者が参加した。

3. ワークショップのアウトプット

ワークショップの参加学生は学部2年から修士1年までの合計25名で、それぞれの専門性を分配しながら3つのチームに分かれて架空の展示会を企画した。以下に3チームのアウトプットを記す。

(1) 「心象建築 -Memories of Architecture-」

形や色、素材など、さまざまな要素によって構成される建築だが、その建築を把握する際、どの要素をその建築の特徴と捉えるのかは人それぞれ異なる。当展示会の企画では、人がその建築を記憶する際のデフォルメされた心の中の建築を「心象建築」と命名し、人それぞれの心象建築の違いにフォーカスした展示会を提案した(図-3)。



図-3 「心象建築」の展示内容掲載ページ

(2) 「Colored Architecture」

モダニズムにおいて白色や無垢材のみを用いた建築が広く普及し、現代においてもその傾向は見られる。一方、バラガン邸やイームズ自邸のような意図的に着彩された建築が歴史上に存在する。当チームはそれらの着彩された建築を年代別/地域別に整理して展示することで、「着彩」という空間操作の手法を問い直す展示会を企画した(図-4)。



図-4 「Colored Architecture」の各種グラフィック掲載ページ

(3) 「あなたは本当に正常なのか -都市の日常/日常の異常-」

都市における人や情報の多さやスピード感に異常さを感じた経験や、その異常さの中で当たり前のように生活していることへの違和感に着目した展示会の企画である。視覚や聴覚に訴えかけるインスタレーションにより、都市で生きることを見つめなおすきっかけを与える提案である。

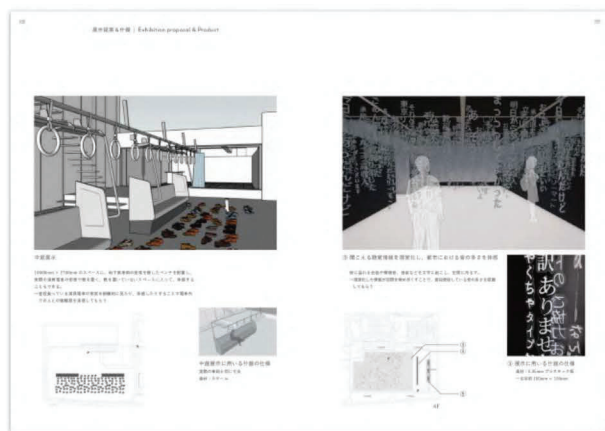


図-5 「あなたは本当に正常なのか」の展示内容掲載ページ

4. 終わりに

これらの基調レクチャー・シンポジウムとワークショップをまとめた冊子「Fictional Exhibitions」を制作・配布し、TOTOギャラリー・間の筏氏から感嘆の言葉をもらうなど、大きな反響を得た。当書籍が、次なる産学連携プロジェクトや展示会創造で活かされる、ノウハウ集や参考文献となっていくことを期待する。